

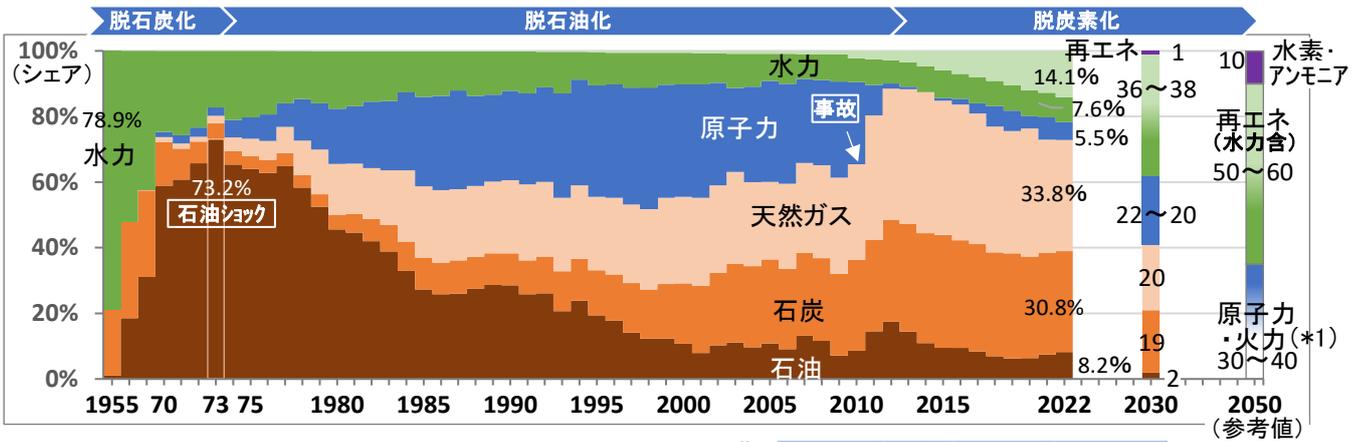
Ⅲ-3-⑰ 発電電力量割合の歴史と2050年の目標(約1世紀の変遷)

2050年の目標(参考値)も含め、約1世紀に亘る電源の変遷を表しています。

1955年、日本全体では水力発電が約8割弱を占めていましたが(なお、東北電力はこの時点ではほぼ100%水力で、火力は1958年の八戸が最初でした。)、1973年には石油が7割強となり、その後は電源の多様化が進展しそれが2010年まで継続しました。

2011年3月の原子力事故後、化石燃料が一時的に急増したものの、再エネも12.7%まで増加し、2019年度には原子力も稼働し、6.9%となっています。

2020年10月には、2050年のカーボンニュートラルを宣言しており、また、その途中段階の2030年にはCO2排出が無いゼロエミッション電源を約6割(再エネ、原子力、水素等の合計)にすることを目標としています。



(*1) 発電時のCO2を回収し、それを地中に埋める方式(CCS)の発電設備

出典: エネルギー白書2023 第214-1-6
R5/4総合エネルギー統計 時系列表
第6次エネ基本計画 P23 同関連資料 P70

発電電力量割合の歴史と2050年の目標(約1世紀の変遷)